

1. 事業の位置付け

事務事業名	商店街にぎわい創出事業		
事業担当	経済部 商業観光課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'02	②〈まちの顔〉 活気ある魅力的な中心市街地をつくる	
	'01	1 人々が集まり、にぎわいと活気にあふれる街づくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	中心街イベント実行委員会等	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： イベント実行委員会等】		
	目的・目標		事業の概要
商店街で交流事業を行うことにより人が集まり、商店街がにぎわっています。		市民とのふれあいを促進するため、商店会が行う交流事業や販売促進活動事業を支援します。また、商店街のにぎわい創出を図るため、紅谷町まちかど広場の活用を促進します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	補助対象事業数				単位	事業
	説明・算定式	補助対象となる商店街の交流事業や販売促進事業数(H22年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	—	—	—	20		
	実績	—	—	—	15		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	商店街の交流事業や販売促進活動事業への参加店舗数				単位	店舗
	説明・算定式	(H22年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	—	—	—	250		
	実績	—	—	—	228		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	中心商店街の活性化を図るために、イベント等の事業を実施する組織への支援は必要です。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	イベント事業を継続し、中心商店街に賑わいと創出を図ることは有効です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	中心商店街の賑わいと創出を図るために、イベントの実施は妥当です。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	将来的には、中心街の活性化を図る組織が独自に事業を展開できるよう、市が支援していく必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		各種イベント、活性化組織への支援	各種イベント、活性化組織への支援	各種イベント、活性化組織への支援	商店街にぎわい創出事業への支援
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	9,900	11,100	9,610	8,381
事業費 (A)		9,900	11,100	9,610	8,381
執行率 (%)		86.84	97.37	84.30	99.07
内訳	職員 (人)	0.60	0.60	0.75	0.75
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		5,035	5,035	6,267	6,195
フルコスト (A+B)		14,935	16,135	15,877	14,576

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	②: 若干遅れている 中心商店街でのイベントの開催回数が減少したため
	主な取組と成果	中心商店街の活性化を図るため、TMO機関にTMO運営費と空き店舗を活用し食文化の発信拠点を目指す「手づくり食工房」事業、七夕祈願和歌飾り及びうまいものマップ事業について補助した。また、ショッピングモールや紅谷町まちかど広場で行うイベントへも支援し、中心商店街のにぎわいに寄与した。	ショッピングモールや紅谷町まちかど広場で開催される各種イベントや活性化を進める組織に対して支援し、にぎわいアップと販売の促進を進めました。	中心商店街のショッピングモールや紅谷町まちかど広場で開催される各種イベントや活性化を進める組織に対して支援し、中心市街地のにぎわいアップと販売の促進を図りました。	中心商店街や紅谷町まちかど広場、地域の商店街で開催される各種イベントや販売促進活動事業及び中心街の活性化を進める組織に対して支援し、中心市街地のにぎわいアップと販売促進を図りました。
検証結果		A: 成果があがった 平成21年度への展開	A: 成果があがった 平成22年度への展開	A: 成果があがった 平成23年度への展開	A: 成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		総合評価は高いが効率性の部分でTMOへの補助については、将来的にTMO独自で事業の収益による事業展開への転換が図られるよう指導する必要性がある。	総合評価は高いが効率性の部分でTMOへの補助については、将来的にTMO独自で事業の収益による事業展開への転換が図られるよう指導を行います。	市民とのふれあいを促進し、商店会が行う交流事業や販売促進活動事業への支援及び中心市街地の活性化を進める組織を支援するため、平成22年度からは商店街にぎわい創出事業として、事業を継続します。	中心商店街で行われるイベントの内容は例年、同じようになる傾向にあるため、より多くの集客に結び付くよう内容を工夫する必要があります。また地域商店街で行われる事業については、実施する商店街が固定化しており、新たな実施団体の掘り起こしが必要です。

1. 事業の位置付け

事務事業名	新しい七夕まつり創出事業		
事業担当	経済部 商業観光課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'02	②〈まちの顔〉 活気ある魅力的な中心市街地をつくる	
	'01	1 人々が集まり、にぎわいと活気にあふれる街づくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	湘南ひらつか七夕まつり実行委員会	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO ○その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
市民参加による新たな七夕まつりが創出され、市内の観光事業の活性化が図られています。		観光振興のため、市民参加による竹飾りの充実などにより、新しい七夕まつりを創出します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	七夕ボランティア募集の周知手段数				単位	件
	説明・算定式	七夕まつりホームページ					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	1	3	5	4		
	実績	1	3	4	4		
活動指標②	指標名	七夕まつり周知ポスター、はがき配布枚数				単位	枚
	説明・算定式	はがき・宣伝ポスター・交通規制図・行事プログラム・会場案内図					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	274000	280000	282000	220000		
	実績	274593	212738	213787	214787		
成果指標①	指標名	七夕ボランティア参加者数				単位	人
	説明・算定式	自主清掃活動団体・案内所、クリーンキャンペーンクリーンタイム、七夕道案内					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	750	800	850	900		
	実績	758	910	925	882		
成果指標②	指標名	七夕まつり市民協力・子ども竹飾り参加団体数				単位	団体
	説明・算定式	市民飾り・子ども飾り					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	50	55	60	55		
	実績	50	51	48	51		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民ニーズ ■ 事業目的の達成状況 ■ 市の関与の必要性 □ その他 	市民との協働の推進と市内の商業振興及び観光PRのために必要です。	● 高 ○ 低
有効性	<ul style="list-style-type: none"> □ 上位施策への貢献 ■ 市民満足度を高める方策 ■ 継続による成果向上の可能性 □ その他 	飾りの掲出をはじめとして市民との協働を継続的に推進することにより、七夕まつり開催への関心を深めるために有効です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の目的、対象、内容 ■ 受益者負担、補助額 ■ 業務の執行体制(人員配置、業務分担) □ その他 	日本の代表的な七夕まつりとして定着しており、商業の振興と観光の活性化のために七夕まつりを継続することは、妥当です。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業務プロセス改善による効率化の方策 ■ コスト削減の可能性 ■ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) □ その他 	市民による自主警備や自主企画及びボランティア参加の仕組みづくりを進め、無駄のない運用により、経費の節減と効率的運営を進めていくことが必要です。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		七夕まつりの開催	七夕まつりの開催	七夕まつりの開催	七夕まつりの開催、60 回記念事業の実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	68,000	67,000	66,000	69,500
事業費 (A)		68,000	67,000	66,000	69,500
執行率 (%)		100.00	98.53	97.06	100.00
内訳	職員 (人)	3.75	3.75	3.05	3.30
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		31,467	31,467	25,486	27,255
フルコスト (A+B)		99,467	98,467	91,486	96,755

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり	②:若干遅れている 行事プログラムと会場案内 図の統合で作成部数を削 減し、経費削減と配布効率 化を図ったため	①:予定どおり -
	主な取組と成果	市民飾り、子ども飾りの 掲出・環境接遇委員会等 のボランティアによる会 場内でのクリーンキャン ペーンの支援を行い、一 定の成果をあげた。	第58回の七夕まつりは、 洞爺湖サミットの開催と 日程が重複したことか ら、警備の負担を考慮 し、イベントの縮小や県 外などへのポスターPR 等も縮小するとともに、 市民生活の影響等を考慮 し、交通規制の一部変更 をしました。市民参加の 促進策として市民飾り、 子ども飾りの掲出・環境 接遇委員会等のボラン ティアによる会場内での クリーンキャンペーンへ の支援を行い、一定の成 果をあげました。	第59回の七夕まつりは、 新たに紅谷パールロード の終日交通規制を行いま したが、海岸南中線は、 前回に引き続き、市民生 活の影響等を考慮し、夜 間の交通規制を解除しま した。また、市民参加の 促進策として市民飾り・ 子ども飾りの掲出、環境 接遇委員会等のボラン ティアによる会場内での クリーンキャンペーンへ の支援を行うとともに、 洞爺湖サミットの開催の 影響により前回縮小した 平日の野外ステージなど も、新たに公募により市 民参加を募り実施し、一 定の成果をあげました。	第60回の七夕まつりは、 パレードを整理統合して 初日と最終日のみ実施と しました。また、市民参 加の促進策として市民飾 り・子ども飾りの掲出、 環境接遇委員会等のボラ ンティアによる会場内 でのクリーンキャンペー ンへの支援を行うととも に、野外ステージも公募 により市民参加を募り実 施し、一定の成果をあげ ました。さらに全国七夕 サミットを商工会議所青 年部と青年会議所の合同 企画、運営により実施し たことで、若い世代の七 夕まつりの運営への参画 が促進されました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	B:おおむね成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		更に市民参加を促進さ せ、自主警備を拡大して いく必要がある。	次年度は第60回を向かえ るため、記念行事等を開 催することとなります が、第61回以降の開催 に向けて経費、安全、環 境、豪華な飾りの継続掲 出、開催場所周辺の居住 環境の変化などを踏ま え、今後の七夕まつりの あり方を見直す必要があ ります。	平成22年度は、前年同様 の規模での開催をする見 込みですが、七夕飾りの 減少などをはじめとし て、第61回以降の開催に 向けて経費、安全、環 境、飾りの継続掲出、開 催場所周辺の居住環境の 変化などを踏まえ、今後 の七夕まつり全般を検討 する必要があります。	七夕まつり開催における 経費、安全、環境、飾り の継続掲出、開催場所周 辺の居住環境の変化など を踏まえ、今後の七夕ま つりのあり方そのものを 関係団体と検討する必要 があります。